



広報

# まつやま

## 主な内容

- 国民年金 ..... 4面
- 組織改正 ..... 2面
- 市民ガイド ..... 5・6面
- 石原さとみミニトークショー ..... 8面

発行:松山市役所/編集:総合政策部広報課/毎月1日・15日 ☎948-6705 FAX 934-2578 HP <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>

市勢 平成23年10月1日現在推計(前月比) ●面積:429.05km<sup>2</sup> ●人口:516,328人(-142) ●男:241,435人 ●女:274,893人 ●世帯数:229,958世帯(-4) ●一世帯の平均:2.25人 ●人口密度:1,203人/km<sup>2</sup>

## 秋山兄弟、正岡子規も歩いた松山で「パワースポットはいく」

### 松山 ガイドと行くまち歩き はいく

### 市民参加で「松山はいく」を全国に!



「俳都・松山」を全国発信するための「松山はいく」に新たなメニュー「パワースポットはいく」が誕生。今回、そのコースを地元大学生に体験、地域の宝を発見してもらいました。皆さんもぜひ、ご参加ください。

まず2人が向かったのは「坂の上の雲」の主人公らが志を抱き、友情と絆を深めた松山城。そこで「青雲の見晴らし」と呼ばれる本丸広場から市内を一望。その後訪れた秋山兄弟生誕地では、触れると知性が増すといわれる秋山真之像に触れたりしました。

次に訪ねたのが四国お遍路発祥の伝説がある石手寺。国宝の二王門にかかる約4尺の大きなわらじに驚きながら門をくぐり、四国霊

場八十八カ所の癒やしを一度に受けることができる「お砂撫で」を体験するなど、歩きながらパワースポットを巡りました。専属ガイドからパワースポットにまつわる言い伝えや地域の歴史を聞いた2人は、新たなまちの魅力の発見を楽しみました。

**コース概要**  
**【日時】** 火・日曜日。いずれも13時30分～16時15分  
**【料金】** 2000円(施設入場料)

保存してください。ここから お役に立ちます。

お問い合わせは、松山はいく事務局 ☎945 6445・FAX 934 6666  
 26(日曜・祝日を除く) 948 6517  
 時) 観光産業振興課 ☎948 6517  
 57・FAX 934 1764へ

**ゆっくり歩き 魅力を再発見**

専属ガイド 原田 ひとみさん

ゆっくり歩くことで、故郷の魅力を再発見できますので、皆さんにぜひ参加していただきたいです。

**歩くの楽しさ**

重松 香織さん (愛媛大学3年)

パワースポットを巡って、少し運気が上がった気がします。地元だからこその知らない場所も多く、その他のメニューも歩いてみたいです。

萩野 明日香さん (愛媛大学3年)

バス代などを含む) 「コース」青雲の見晴らし(松山城)↓秋山兄弟生誕地↓石手寺↓伊佐爾波神社↓宝蔵寺↓川満寺↓道後温泉本館・玉の石

**申し込み**

参加希望日の前日の17時まで、電話またはeメールで参加者全員の氏名、電話番号、代表者の住所、携帯電話番号を松山はいく事務局 [monomachi.jp@city.matsuyama.ehime.jp](mailto:monomachi.jp@city.matsuyama.ehime.jp)、[matsuyamahaiiku@gmail.com](mailto:matsuyamahaiiku@gmail.com)へ

※松山はいくには、歩いて楽しめるメニューが数多くあります。詳しくは <http://www.sakanonenoku.monomachi.jp/haiiku/> をご覧ください。

**「瀬戸内・松山」構想 イメージ図**

● 広島地域との連携による「瀬戸内」をテーマとした旅行商品の造成  
 ● 「広島地域」と「松山」間の二次交通の活性化

お問い合わせは、観光産業振興課 ☎948 6558・FAX 934 1764へ

**「瀬戸内・松山」構想シンポジウム**

**瀬戸内海は広島と愛媛・松山を結ぶ「海の道」**

本市が新たな観光戦略として掲げる「瀬戸内・松山」構想の取り組みや課題、今後の展開などについて話し合うシンポジウムが10月1日、子規記念博物館で開催され、約300人の参加者はパネリストの意見を熱心に聞いていました。

「瀬戸内・松山」構想は瀬戸内海をテーマに、瀬戸内が有する風光明媚な景色や、世界遺産「厳島神社」、かつての軍港の面影を残す「呉」、日本最古の名湯「道後温泉」など地域資源の魅力を最大限に引き出し、物語を演出しながら広島地域と愛媛・松山を周遊する旅行商品の企画造成と旅行マーケットへの流通・定着を目指すものです。

今回のシンポジウムは道後温泉誘われるまちづくり推進協議会 宮崎光彦会長の進行で、野志市長のほか、公共交通機関や観光関係者ら6人がパネリストとして構想実現に向けて行いました。

た課題や今後の展開、愛媛と広島との連携強化の必要性などについて活発な意見交換を行いました。

「瀬戸内・松山」構想について意見を交わすパネリスト